

## ◎ 2月定例会「社会見学 ②」 2月6日(木) 晴れ 参加者22名(体験参加1名含む)

～天気晴朗なれど冷たい強風 味の素川崎工場と東京湾アクアライン裏側探検で  
一日を有意義に楽しみました！～

2月6日(木)、午前8時30分に大江戸線練馬駅に集合した20名と、味の素川崎工場がある京浜急行大師線の鈴木町駅で合流した2名を加えた合計22名(男性11名、女性11名)の参加者を得て、社会見学②を実施しました。

最初に訪問した味の素川崎工場は今から106年前の1914年に設立、3000人の従業員が働いています。現在は「味の素」「ほんだし」「Cook Do」など私達の食卓でお馴染みの調味料を製造しており、東京ドーム8個分に相当する広大な敷地を有しています。工場最寄り駅の鈴木町駅のネーミングは、味の素の創業者である鈴木三郎助氏にちなんだもので、1944年に地域一体が「鈴木町」と変更された際に駅名も変わったとのこと。

見学コースは、「味の素」「ほんだし」「Cook Do」の3つがあり、今回私達は「ほんだしコース」を選択、「味の素グループうま味体験館」からのスタートとなります。見学前にマスコットキャラクターのAjipanda(アジパンダ)の人形前で集合写真を撮影。体験館では立ったままシアター映像が360度4面に展開され、「うま味」と共に歩んできた日本人の食の歴史や様々な美しい風景を映し出してくれます。次に広い工場を巡るためバスが用意され、この中でも専門ガイドから工場の歴史や見どころの解説がありました。



味の素 川崎工場：アジパンダを囲んで

工場内見学コースの空間は料亭をイメージしており、ダシのいい香りが漂っています。製造工程はカツオ節を粉碎するところから始まり、造粒室にて混ぜて練り合わせた材料を顆粒にして乾燥、品質検査を経て、最後に充填包装室で袋や箱に包装されます。一時間に約2tもの顆粒が製造されると伺い、改めて工場の大きさを実感しました。

その後バスで体験館に戻り2階で試食体験。味噌汁とほんだしを用いたおにぎりがお茶とともに振る舞われ、味の素製品のお土産をもらって12時過ぎに見学を終了しました。

味の素川崎工場を後にした私達は電車で川崎駅に移動、高速バスにて次の見学先である「東京湾アクアライン」の「海ほたる」に向かいました。昼食はバス内で各自持参した弁当やコンビニで買ったおにぎり等で済ませ、午後1時半過ぎに「海ほたる」に到着。

「東京湾アクアライン」が開通したのは1997年12月のこと。東京湾を横断して川崎側から約9.5kmのトンネル部と千葉県木更津側までの4.4kmの橋梁部を持つアクアラインの中間に、まるで大きな船のように浮かぶのが「海ほたる」。360度を海に囲まれた全長650mの人工島に建設されたパーキングエリアです。東京湾に浮かぶ豪華客船をイメージして建設された5階建ての建物は、1～3階までの駐車場、4・5階の商業施設で構成されています。あいにくこの日は強風で波が高く寒空でしたが、川崎側デッキからはうっすらと富士山やスカイツリーの姿見ることができました。

私達はここで東日本高速道路(NEXCO 東日本)が主催する90分間の「アクアライン裏側探検ツアー

一」に参加。専属ガイドの解説付きで、建設時の映像視聴のほか、普段見ることのできない海底トンネル入口から緊急避難通路まで徒歩で潜入させていただきました。

トンネル下部のスペースを有効活用して設けられた避難通路では、自分たちの上に道路があり多くの車が通過していることが音を通して感じられます。アクアラインの本線上には非常用出口が300mおき設置されており道路下の避難通路に出られる仕組みです。この避難通路から120段の階段（ビル7階相当）を上り切ると地上に出て、最後にアクアライン専用の消防車庫とトンネルを掘る時に使われたシールドマシンのカッターフェイスモニュメントを見学。シールドマシンの直径は約14mと巨大でその大きさに驚かされます。

アクアラインには一般にあまり知られていない様々な建設の工夫や安全確保の仕掛けが各所があり、圧巻の技術力とスケールの大きさに終始圧倒され大変興味深い見学となりました。



海ほたる：巨大なシールドマシンをバックに

アクアライン見学終了後は高速バスで川崎駅に戻り、そこで解散となりました。極寒の一日で早朝から移動や見学が続きかなりの強行軍でしたが、多くの見どころや新たな発見もあり、大変実りのある社会見学となりました。

報告：種子田暁夫